

第5回日韓学生シンポジウムのご案内

この日韓学生シンポジウムは、2000年からソウル大学、東北大学で毎年交互に開催しているものである。形式は一般の学術国際会議に準じて行っている。各学生は自らの最近の特筆すべき研究成果を20分程度口頭で発表する。発表は討論も含めてすべて英語により行う。また、シンポジウム開催前に発表者は研究発表の英語原稿を学生代表に提出し、会議録（プロシーディング）を刊行する。学術交流以外にも、ラボツアーなどを通じ、両国の文化交流、両国の学生のフレンドシップ形成を目指す。

このシンポジウムは、研究発表・自主運営を通して、両国学生の研究レベルの向上のみならず、国際的に通用するディスカッション能力、プロジェクト遂行能力の習得、および、21世紀の両国に必要とされるフレンドリーシップ、パートナーシップの形成を、これからの若い世代において草の根レベルから実行することを主眼とする。

1. 主催

(日本側) 21st Century COE program, International COE of Flow Dynamics, Tohoku University.

(韓国側) Brain Korea 21 Materials Education and Research Division

日本側学生代表：

佐藤一永（工学研究科エネルギー安全科学国際研究センター 橋田研究室D2）

(代表補佐) 酒井孝明（多元物質科学研究所 水崎・川田研究室D1）

e-mail:t-sakai@mail.tagen.tohoku.ac.jp

2. 開催責任者（教員）：

(韓国側) : Prof Han-Ill Yoo (Professor of Ceramics, School of Materials Science and Engineering, Seoul National University, Seoul 151-742, Korea)

(日本側) : 水崎純一郎（東北大学多元物質科学研究所）

3. 期 日

2004年10月28日（木）～30日（土）

10月27日仙台発、31日帰仙

4. 開催場所

韓国ソウル郊外のセミナー・宿泊施設で行う。

5. 形 態

研究発表：参加学生全員が討論を含み20分程度の発表を行う。21世紀COEによる旅費

支給の対象は、後期課程学生に限定されるが、セミナー自体はB4からオーバードクターまで、研究を行っている全ての学生が対象。

教員の役割：原則として、教授はオブザーバーで討論には参加しない。助教授、助手、博士研究員は自主的判断で適宜口を出すこともある。あくまで学生主体。

6. 内 容

固体内の欠陥・イオン移動・輸送現象に関わる学理・その応用・応用システムについての研究・その応用に関連する全て。例えば、電池（リチウム電池、燃料電池）の材料化学・電気化学・特性解析・熱解析・エネルギーシステムの中での役割の解析、水蒸気電解と水素エネルギーシステム・水素製造・水素貯蔵・水素輸送、セラミックスの欠陥構造と輸送現象・電子構造・光機能ガラス・アモルファス構造・その中での輸送現象・イオンダイナミクス。

7. 申込期限： 2004年7月20日（火）

8. 参加申込先： 酒井孝明（内線 5342）t-sakai@mail.tagen.tohoku.ac.jp

9. 問い合わせ先

指導教官サイドの話：水崎純一郎（内線 5340）mizusaki@tagen.tohoku.ac.jp

学生からの問い合わせ：酒井孝明（内線 5342）t-sakai@mail.tagen.tohoku.ac.jp